

基礎聴覚評価学

[講義・演習] 第2学年 前期 必修 1単位

《履修上の留意事項》Google Classroomを利用し、オンライン上から講義資料の配布、演習課題の提示等を行い管理する。パソコンとwi-fi環境が必須である。
(4回目・5回目は2つのグループに分かれて担当教員が同時開講する。)

《担当者名》 前田秀彦 maehide@hoku-iryo-u.ac.jp 葛西聡子

【概要】

聴覚障害を評価する上で解剖生理、音の基礎知識、基本的聴覚検査法を学修する。

【学修目標】

「一般目標」

1. 聴覚器・平衡器障害について理解する。
2. 聴覚障害の評価方法について理解する。
3. 音について理解する。

「行動目標」

1. 症例に対して診断に必要な一般的な検査法を挙げ説明できる。
2. 聴覚障害を分類できる。
3. 聴覚器と平衡器を理解しその役割を説明できる。
4. 音に関する基本的事項を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	聴覚器・平衡器の解剖生理	聴覚障害の評価に必要な聴覚器、平衡器について理解する。	前田秀彦
2	音の基礎知識	聴覚障害の評価に必要な音の基本（周波数、dB、聴覚フィルタ、音源定位etc）について復習する。	前田秀彦
3	聴覚検査法 標準純音聴力検査1	気導聴力検査、骨導聴力検査、聴力検査の実施手順などの動画を視聴し、標準純音聴力検査の概要を理解する。	葛西聡子
4	聴覚検査法 標準純音聴力検査2	実際に気導聴力検査を行い、気導オーディオグラムを作成する。	前田秀彦 葛西聡子
5	聴覚検査法 標準純音聴力検査3	実際に気導・骨導聴力検査を行い、気導・骨導オーディオグラムを作成する。	前田秀彦 葛西聡子
6	聴覚検査法 インピーダンスオーディオメトリー	ティンパノグラム、耳小骨筋反射検査について学ぶ。	前田秀彦
7	聴覚検査法 耳音響放射検査	耳音響放射検査（特に歪成分耳音響放射：DPOAE）について学ぶ。	前田秀彦
8	小テスト	小テストを通して、学修した内容の確認と整理を行う。	前田秀彦

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験（50％） 小テスト（50％）

【教科書】

最新言語聴覚学講座 聴覚障害学 編著：中川尚志 廣田栄子（医歯薬出版）（デジタル教科書）
日本聴覚医学会 編 「聴覚検査の実際 改訂4版」 南山堂（デジタル教科書）

【参考書】

青木直史 著 「ゼロからはじめる音響学」 講談社 2014

【学修の準備】

- ・基礎聴覚障害学で学ぶ、聴覚検査法の内容は第2～3Qで開講される「聴覚障害学演習」、「聴覚障害学」、「聴覚障害学演習」、「耳鼻咽喉科学」にリンクする。指定した教科書および参考書にあげた専門書を読み、評価法に留まらず、聴覚障害の病態、診断・治療などについて総合的に理解するようこころがけること。分からない部分は、オフィスアワーを利用し積極的に担当教員に確認すること。
- ・履修済みの「解剖・生理学」、「音響学」を復習すること。理解が難しい部分は、オフィスアワーを利用し積極的に担当教員に確認すること。
- ・講義終了後は、配布した資料を精読し課題等を速やかに行うこと。また、Google classroomに提示された演習問題などで重要部分を復習し理解しておくこと。講義以外に、最低、160分（予習80分、復習80分）の学習時間を確保するのが望ましい。聴覚領域は専門用語が難しい。そのため、専門用語を理解した上で、次の講義に備えることが望ましい。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

DP2．言語聴覚療法に必要な基礎的専門知識と技術を修得し、科学的思考のもと実践する能力を身につけている。

【実務経験】

前田秀彦（臨床検査技師、言語聴覚士）
葛西聡子（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

聴覚障害と評価についての理論や知識を身に付けることが出来るよう、机上ではない豊富な臨床経験に基づいた講師による授業を展開する。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している